

## 令和元年度第1回浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和元年6月6日(木) 午後6時30分～8時
- 開催場所 総合福祉センター 2階 第2会議室
- 参加者
  - (委員) 手塚委員 (浦安市小中学校校長会)
  - 坂野委員 (民間有識者 浦安子ども劇場)
  - 田中委員 (民間有識者 よみきかせサークル ルフラン)
  - 岡田委員 (浦安市民生委員児童委員協議会)
  - 小神委員 (浦安市民生委員児童委員協議会)
  - 高倉委員 (浦安市青少年相談員連絡協議会)
  - 伊藤委員 (浦安市青少年相談員連絡協議会)
  - 小泉委員 (浦安市子ども会育成連絡協議会)
  - 菊地委員 (浦安市子ども会育成連絡協議会)
  - 三代川委員 (健康こども部保育幼稚園課長)
  - 平林委員 (健康こども部青少年課長)
  - (事務局) 健康こども部児童センター 齊藤所長
  - 東野児童センター 大野・泉澤・海老原・奥山・吉清
  - 高洲児童センター 高梨・村松・今井・小出・後藤
- 開式
- 児童センター所長挨拶
- 自己紹介 委員・事務局
- 会長挨拶
- 議事
  - (1) 平成30年度事業報告
  - (2) 令和元年度事業計画
  - (3) その他
- 閉会

- 開式 事務局 海老原  
児童センター所長が人事異動により変わったことを報告。
- 斉藤所長挨拶  
今年度の人事異動が多く、私以外にも東野児童センターでは1名、高洲児童センターでは1名が異動となった。初めての児童センターでわからないことばかりだが、一生懸命に頑張る所存である。  
事業ではこどもまつりが無事に終わり、今は県民の日のイベントに向かい準備に追われているところである。今後も児童センターに足を運び様子を見ていただきたい。
- 自己紹介 ・各委員より ・事務局より
- 会長挨拶 手塚会長
- 議事
  - (1) 平成30年度事業報告
    - 1 東野児童センター事業報告 泉澤
      - ・利用実績（P4～7）について
      - ・こども健全育成事業（P8・9）について
      - ・子育て支援事業（P10・11）について
      - ・地域貢献事業（P12）について
    - 主な事業内容の説明
      - ① 「なわとび教室」について 泉澤  
けがをしないように準備体操をしたあと、集団ゲームを行ったことで学校、学年も違う初対面の子どもたちが打ち解けることができた。  
前とび、駆け足とび、2重跳び等をした後、長縄を使用し縦波、横波、8字跳びをした。タイミングが難しい8字跳びは、講師に合図をしてもらい跳び方をマスターしていた。次週のなわとび大会の告知もした。
      - ② 「恵方おにぎらずをつくろう」について 奥山  
節分の恵方巻にちなみ、料理に不慣れな児童でも上手につくれる「恵方おにぎらず」を企画した。調理器具の使い方から説明を受けたあと、7種の具材でおにぎらずを作り、笑顔で食していた。食後は食器を洗浄し、棚に片づけをしたあと、市健康増進員から「三食の大切さ」「バランスのよい食事」についてレクチャーを受けた。  
今年度はハロウィンに因んだお菓子作りを予定している。
      - ③ 「フルーツキャンディー」について 吉清  
未就学の親子を対象に、年73回開催をした。活動内容は、毎回体操、読み聞かせの後に主活動として季節の行事を取り入れた制作や運動遊び、絵の具や小麦粉粘土、シャボン玉など親子で様々な経験ができるようプログラムしている。  
また、年に3回ほどスペシャルプログラムとして講師を依頼し、体験講座を開催している。

これからも多くの親子に参加してもらえるよう、PRと内容の充実に努めたい。

#### ④ 「電車遊び」について 海老原

毎週金曜日に視聴覚室全面で自由にプラレールで遊べる、という事業である。それとは別に年5回、父子を対象とした「お父さんも一緒に電車遊び」という事業も行っている。

時間帯によって参加する年齢層が異なるが、幼児から時には高校生の参加もあり、年上の子が年下の子を気遣ったり、年下の子が年上の子の模倣をして上達する様子が見受けられ、異年齢交流の場となっている。また、悩みを抱えた母の声に耳を傾ける大切な事業でもある。

## 2 高洲児童センター事業報告 高梨

- ・利用実績（P14～17）について
- ・こども健全育成事業（P18～19）について
- ・子育て支援事業（P20）について
- ・地域貢献事業（P21）について

主な事業内容の説明

### ① 「児童センタードッジボール大会」について 村松

児童センターを広く知ってもらい、他地域からの利用につなげることを目的に、東野、高洲の2館での共同開催とした。

当日はゲーム前に2つのアイスブレイク（バースデーライン、あいこでジャンケン）を行い、初めて場を共有する子同士で交流することができた。

本題のドッジボールでも「全員が必ず1回は投げる」というルールを追加することでチーム内で声を掛け合い、助け合いながら、相手チームと対戦することができた。

### ② 「ハンドベルコンサート」 村松

簡易的でない、様々な大きさのベルを多数使った演奏は迫力があり、子どもたちも聞き入ると同時に、ベルを操る手さばきにも見入っていた。

### ③ 「トーンチャイムコンサート」 村松

トーンチャームの音色を鑑賞後、楽器体験として講師の指導をうけ、皆でタイミングを合わせながら「きらきら星」を演奏した。

ハンドベルやトーンチャイムは複数人でなければ音楽にならない楽器である。今回の演奏体験で美しい音色を共有し、音楽を作り上げるという良い体験となった。

## ◎質疑応答

会長 各センターより報告があった内容について質問はないか。

- 委員 P9「百人一首」「百人一首大会」に使っている札は簡易版なのか。
- 事務局 (東野) 参加する子どもの年齢、レベルに応じて簡易版と小倉百人一首とを使い分けている。上級者には本格的に行っている。  
(高洲) 実施年数が浅いため、まだ深く浸透していない。まずは身近にふれてもらうように、簡易版を職員が読むようにしている。
- 委員 放課後異年齢交流もしくは居場所づくりとしての役割があるが、低学年の利用が多い。高学年の参加がある事業を教えてください。
- 事務局 (東野) 遊戯室ではドッジボールが人気で、それを目的に来館する高学年が多い。ルールも簡単なので、低学年・初めての子も参加したが、その場合は高学年が率先して低学年・初めての子に手加減をしたルールで行うなど異年齢交流の目的を果たしていると思う。  
また、工作室で行っている「糸と針を使って」には、製作好きの高学年が布巾や巾着、ティッシュケースなどを作っており、その中には男子の参加もある。  
(高洲) 高学年には卓球に根強い人気がある。卓球は小学生から利用可能だが、高学年になってより上達がみられる。
- 委員 これは質問ではなく感想なのだが、ドッジボール大会の「全員必ず1回投げる」に感動した。勝敗にこだわるよりも団体として「存在を認める」ところが良い。  
プラレールの橋脚を建物として使うところがすごい。どれをどう使うか自由。異年齢交流、親同士の気づき。ありがたい場所だと思った。  
ハンドベルコンサートは15分以上とどまるのが難しい子もいる中で、45分の演奏はすごい。普段の児童センターの環境がいいのではないかな。物事を聴く・見るという姿勢は育つのだ。ソーシャルスキルを学んでいると思う。
- 委員 私も感想になるが、民とは違う、食育としての公の良さを感じた。  
プラレールは箱庭療法としての役割もあるのでは？母親にもいい場所だと思う。演奏会は大人と同じプログラムを見る・聴くということで育つものがあるはず。これからも長く取り組んでほしい。

## (2) 令和元年度事業計画

- 1 東野児童センター事業計画 (P13) 泉澤
- 2 高洲児童センター事業計画 (P22) 高梨

### ◎質疑応答

会長 令和元年度の事業について質問はないか

委員 父親の参加事業が東野は多いが高洲は少ない。ラグビーは父親もいいのでは？  
また、東野のUセンターまつりの参加は良いと思う。高洲のむかしあそびも高齢者との交流はいいと思う。子供とふれあいたいという高齢者のために、自治会との連携もいいのではないか。

事務局 (東野) 高齢者との交流はUセンターまつりとは別に、ゆかた会と連携をして視聴覚室で一緒に盆踊りのレクチャーをしていただいた。

今後も交流に目を向けたいと思う。

(高洲) ラグビーの参加は子どもだが、保護者の見学もOKとなっている。今後は是非父親も巻き込みたい。

また、毎月子どもの手形アートを行っているが、父親にも来てもらえるよう、曜日を変更して開催するなどを検討している。

委員 イベントのPRはどうしているのか。QRコードを使うなどすれば、近所ではない親子にもアピールできるのではないか。

事務局 毎月お知らせを学区の学校・施設に配っている。個人情報の絡みもあるが、今後はQRコード等も考えていきたい。

会長 ほかに意見はないか。意見はないようなのでこれで、議事は終了する。

青少年課長 青少年課夏休み期間中の事業(キャンプ・洋上研修)について案内。

○ 閉会